



## 静脈血栓症について

臨床検査医学科

田中 朝志

新型コロナウイルスが流行し、外出する機会が減ったためか下肢静脈血栓症の患者さんをよくみかけます。ヒトには進化した止血機構が備わっている反面、血栓を制御するシステムは脆弱です。今回は血栓症の危険因子と静脈血栓症の診断、予防について説明します。

### ・血栓症の危険因子

静脈血栓の発生には①血管の内皮細胞障害、②血流の停滞、③血液凝固能の亢進が関与するとされています。また、血栓形成防止は 2 段階のみの反応でほとんど増幅されないため、複数の因子が絡むと誰にでも血栓症はおこり得ます。血栓症の危険因子として、上記の①に関与するのが喫煙、血管炎をおこす膠原病等、②は肥満、長期臥床、長時間座位、加齢等、③は悪性疾患、手術、脱水等が挙げられます。

### ・静脈血栓症の診断

下肢静脈血栓症では片足のむくみ、疼痛、皮膚の発赤などがみられます。血栓のできる速度・部位や静脈を閉塞するかどうかで症状は異なりますが、強い痛みや青紫の皮膚の色は緊急治療のサインです。最近では血液検査や超音波や CT 等の画像検査の精度が上がり、血栓症を疑うことができれば確実に診断できるようになりました。

### ・静脈血栓症の予防

今夏は猛暑や感染症・災害による外出自粛、在宅勤務の増加などが血栓症を誘発した可能性が考えられます。血栓症の予防には適度な水分補給と下肢の運動、基礎疾患の適切なコントロールが重要です。皆様には予防の必要性を理解いただき、我々医療従事者と情報共有をした上で、積極的な取り組みをお願いしたいと思います。

下肢静脈血栓症の静脈造影所見



マスク着用にご協力ください



## 新型コロナウイルス感染

### 予防対策実施中！



アルコール消毒  
ご協力をお願いします